

埋文やまがた



2010年9月30日
第45号



作野遺跡・縄文時代の集落跡



ヒスイの丸玉



石刀



ヒスイの勾玉

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

YAMAGATA PREFECTURAL CENTER FOR ARCHAEOLOGICAL RESEARCH

〒999-3161 山形県上山市弁天二丁目15番1号 TEL 023-672-5301(代) FAX 023-672-5586

ホームページ：<http://www.yamagatamaibun.or.jp>

メールアドレス：yac@yamagatamaibun.or.jp

平成22年度 山形県内の発掘調査

発掘調査事業

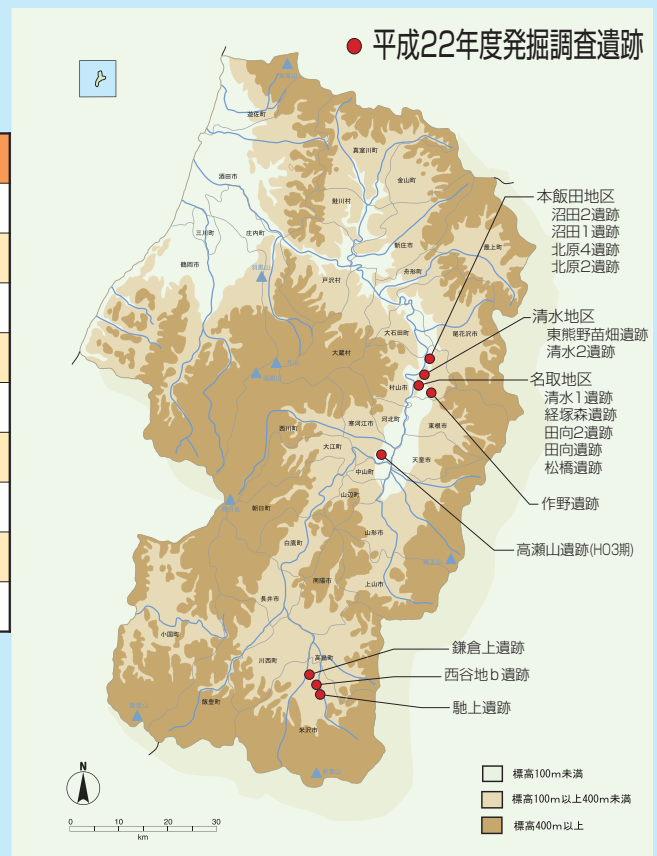
(8月10日現在)

今年度は、国土交通省・県土整備部・村山市からの委託を受け、16遺跡の発掘調査を実施しています。発掘調査の終了した遺跡は整理作業を行い、報告書刊行に向けての仕事をします。

No	遺跡名	市町村	時代区分	種別	調査期間
1	沼田1遺跡	村山市	縄文・平安	集落跡	5/19~10/27
2	沼田2遺跡	村山市	縄文・平安	集落跡	5/19~10/27
3	作野遺跡3次	村山市	縄文	集落跡	7/5~8/4
4	北原2遺跡	村山市	縄文・平安	集落跡	5/19~10/18
5	北原4遺跡	村山市	縄文・平安	集落跡	5/19~10/18
6	清水遺跡(1)	村山市	縄文・平安	集落跡	5/17~11/5
7	清水遺跡(2)	村山市	縄文・平安	集落跡	5/18~11/30
8	東熊野苗畑遺跡	村山市	縄文・平安	集落跡	5/18~11/30
9	田向遺跡	村山市	奈良・平安	集落跡	5/17~11/30
10	田向2遺跡	村山市	奈良・平安	集落跡	5/17~11/30
11	経塚森遺跡	村山市	平安	集落跡	5/17~11/30
12	松橋遺跡	村山市	奈良・平安	集落跡	5/17~9/22
13	高瀬山遺跡(HO)3期3次	寒河江市	旧石器・縄文・奈良~中世	集落跡	6/1~8/6
14	西谷地b遺跡2次	米沢市	奈良・平安・中世	集落跡	5/13~11/30
15	鎌倉上遺跡2次	米沢市	古墳	集落跡	6/1~10/15
16	馳上遺跡3次	米沢市	古墳~中世	集落跡	5/14~11/10

整理作業

No	遺跡名	市町村	業務内容
1	堤屋敷遺跡	米沢市	報告書作成
2	下屋敷遺跡	米沢市	報告書作成
3	馳上遺跡2次	米沢市	報告書作成
4	川前2遺跡1・2次	山形市	報告書作成・刊行
5	作野遺跡2次	村山市	報告書作成・刊行
6	行司免遺跡	鶴岡市	報告書作成
7	矢馳A遺跡2~4次	鶴岡市	報告書作成
8	川内袋遺跡	鶴岡市	報告書作成
9	玉作2遺跡2次	鶴岡市	報告書作成・刊行



やまがた埋文祭り 2010

山形県埋蔵文化財センター-参観デーのお知らせ

1 日 時 2010年10月3日(日) 10:00～16:00

2 会 場 (財)山形県埋蔵文化財センター (上山市弁天二丁目15-1)

3 主な内容

①**展示会**：山形県内から出土した土器や石器などを間近に見ることができます。

②**整理作業体験**：土器の復元や拓本など考古学の体験が楽しくできます。

③**記念撮影**：縄文服を着て、縄文土器と一緒に記念撮影をしてみましょう。

④**勾玉作り**：滑石を削って、自分だけの勾玉ペンダントをつくります。

⑤**弓矢体験**：縄文ハンターになり、動物の獲物パネルを的に、弓矢体験ができます。

⑥**クイズ・スタンプラリー**：考古学クイズを解いてスタンプを全部集めると、ステキな景品がもらえます。

これらの体験はすべて無料です。

※「平成22年度発掘調査速報会」は、2010年12月12日(日) 午後1時～、村山市の甑葉プラザ
(電話番号 0237 - 52 - 3531) で実施します。

展示会



整理作業体験



記念撮影



勾玉作り



弓矢体験



クイズ スタンプラリー



整理室から

こんにちは! ④

整理作業の「実測」について紹介します。土器や石器などの形や寸法を測り、実際の大きさを図に描いていく作業です。



方眼紙に石器のせて、図を描く位置をあわせます。



スコヤと鉛筆を使って平面の輪郭を写していきます。



土器の断面を写しとる時はマコ（形取り器）を使います。



キャリパーを使って土器の厚さを測ります。



土器の断面を写した図です。



弱い物の形取りは慎重に作業します。



ディバイダーを使って土器の模様の間隔を測ります。



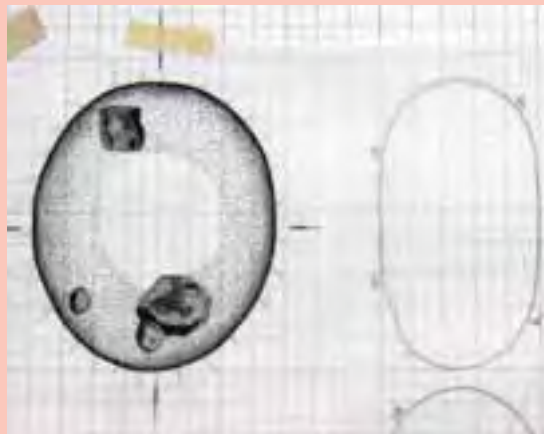
ディバイダーで方眼紙にしるしをつけて細部の長さを描き込みます。



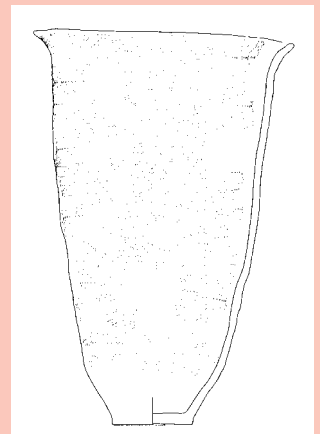
小型カメラの付いた実測器を使って形取りしているところです。



大きな土器の計測は、手間がかかります。



すり石のトレース図



縄文土器の実測図

出前授業

山形県埋蔵文化財センターでは文化財の普及啓発事業の一環として、小中学校などで出前授業を実施しています。詳しい内容は、センターホームページをご覧ください。 <http://www.yamagatamaibun.or.jp>

土器や石器にふれてみよう



土器・石器の出土品についてくわしい説明を行います。実際に出土品に触れてもらいます。希望があれば、石器で野菜を切ってみる体験もできます。

火おこし体験



江戸時代以降に使われた、マイギリ式の発火器を使い、火おこしの体験を行います。2人1組で、交互に道具をつかって火をおこします。火をおこすには、根気と体力とスピードが大切です。

縄文クッキー作り



ドングリ粉とヤマモ粉を水で溶かし、クルミを入れてホットプレートで焼きます。味はうすいので、塩や、ハチミツをつけると食べやすくなります。

弓矢体験



動物の獲物パネルを的に、矢を飛ばします。こつをつかむまでは、くりかえし行う必要があります。また、縄文服を着て、縄文土器と一緒に記念写真を撮ることもできます。

展示ギャラリー

山形県埋蔵文化財センターでは、発掘調査で得られた出土文化財を広く県民の皆さんに公開する企画展示を実施しています。今年度も村山総合支庁、鶴岡市立図書館で展示を行いました。9月には山形空港、11月には庄内空港で展示を行います。入場は無料ですので、ぜひご覧ください。



「山形の発掘調査最前線ー山形城三の丸跡ー」

期間：6月14日(月)～6月30日(水)

「山形の発掘調査最前線ー上の寺遺跡ー」

期間：7月21日(水)～8月6日(金)

会場：村山総合支庁 1階玄関ホール

内容：センターの発掘調査の成果をお知らせする目的で、寒河江市慈恩寺近くの「上の寺遺跡」と「山形城三の丸跡」の出土品を展示しました。



「足元には文化財ーようこそ鶴岡のむかしへ見て・触れて・歴史を感じてみようー」

期間：7月17日(土)～8月29日(日)

会場：鶴岡市立図書館 2階展示コーナー

内容：鶴岡市教育委員会との共催。鶴岡市内から出土した縄文時代から平安時代までの土器や石器、木製品などを展示しました。夏休み期間中のため多くの子ども達が見学に訪れました。



「縄文の華ー縄文時代晩期の土器ー」

期間：9月8日(水)～9月21日(火)

会場：山形空港 2階多目的ルーム

内容：東北中央自動車道の建設にともない、村山市に所在する遺跡の発掘調査を進めています。これまで発掘された縄文時代晩期の模様や形が美しく「華」と呼ばれるにふさわしい土器を多数展示しています。



「発掘された庄内の遺跡ー中世編ー」

期間：11月2日(火)～11月18日(木)

会場：庄内空港 3階多目的展示スペース

内容：今年で4回目を迎える庄内空港展では、庄内地方から出土した中世(鎌倉・室町時代)の出土品を紹介します。武士の治世が始まった時代に、青磁や白磁など中国からの輸入品が山形にも伝わってきています。

夏休み親子発掘体験教室

8月8日(日)に米沢市の馳上遺跡で夏休み親子発掘体験教室を行いました。14組30名の親子の参加があり、みんな夏の暑さを忘れて一心に土器を探しました。



遺跡の様子や発掘の注意点などについて、映像を見ながら説明しました。



馳上遺跡は奈良・平安時代の遺跡で、川跡からたくさんの土器が見つっています。



土器を発掘した子どもたち。小さな破片でしたが、とても喜んでいました。



暑い中、親子で懸命に土器を探しました。



馳上遺跡について出土品を見ながら学習しました。

踏査 ～心の約束を果たす旅～

専務理事 柏倉俊夫

今年度におけるセンターの調査事業は、事業者の要請もあり、東北中央自動車道の整備に伴う調査を優先的に取り組むこととしている。さらに、その整備される地域は分布調査で多くの遺跡が縄文時代の集落跡と予見されており、また、遺跡から遺跡の間が連坦していることもあり、その下準備のため事前に車で走行したり、歩いたりして、周辺の地理的情報の把握に努めたところであった。

その折に感じた何かしらい言難い「心の約束」らしきものを果たさなければならないとの独りよがりを実行に移すべく、発掘調査が始まるのを待って、佐藤・名和両専門員を道連れに北の沼田遺跡を起点に、南の松橋遺跡までの11遺跡、約8.3km間を2回にわたり踏査したのである。

それぞれの遺跡に立ち寄り、置かれた地形などを観察しながら、出土した土器や集落跡の一つ一つを目の当たりにし、遙か太古の昔を思い描くたびに頭をよぎることがある。それは、人間が発明した最初の機械は、高名な英国の考古学者ゴードン・チャイルドによれば、「弓」であるという。そして、この考古学の権威が「人が初めて化学変化を意識的に応用した最初の出来事」とする営みが土器づくりという。土器を生み出した縄文人は手びねりに精魂を傾け、化学変化に後を託したことであろう、自らの生を支える煮炊きや食糧備蓄のための道具である。その目的に合った形にすることにすべての思いを込めた情念は、手から土へと染み通ったのかもしれない。時は身じろぎもせず悠久のままであり続け、その時を呼び戻す事はできないけれども、それらの「ひとかけら」「ひとかけら」を手に取り、作り手に語りかけたいという思いを抱きながら、そんな一つ一つの「モ

ノ」づくりへの情念が、現代の恵まれた生活に慣れ切って大事なものを見失った私の心の琴線に響き訴えてくるものがある。

そして、移動手段は「歩行」に限られていたであろう彼らの前には、峠のように石畳があるわけでもない雑木の生い茂った深い山道や、草原の道なき道を、今とは違って野性的に研ぎ澄まされた五感を武器に、隣の集落からその先の集落へと、また、狩猟場から狩猟場へと、その思いを遂げるため歩き続け、家族や友人また愛する人に思いを馳せてそこに辿り着こうとしたのであろうか。

古（いにしえ）から人間は、どれほどの汗と涙を流せば思いを遂げることができるのだろう、その時を信じてひたすら走り、歩み続けることなのか。そんな感慨にふけりながら、縄文人の地中からのメッセージである「モノ」を今の世によみがえらせたとき、当然の事として、調査員の一人一人が襟を正し純真に感動を覚え、先人に畏敬の念を持ちつつ、決しておろそかにしてはならない誠実で責任ある活かし方を選別し、選択しなければならないものと痛切に感じるのである。

こうして自らの足で踏査し、縁あって埋蔵文化財に携わる組織に身を置いた4年5ヵ月の日々を振り返るとすれば、感動と殊のほか格別の重みと深さをもっているかけがえのない時間の連続だったと思えてならない。「モノ」が掘り出された時の新鮮な感動は、仕事をする人の生き方にも通じるものがあり、「心は年をとらない」とは言うものの、心に感動を呼び起こす「気力」が失われた時には、自戒すべきものがあると改めて感じた旅であった。

「埋文やまがた」の購読について

広報誌「埋文やまがた」購読ご希望の方は、当センターまで電話にてお問い合わせ下さい。
なお、郵送料はご負担いただきます。

電話 023(672)5301(代表)

編集後記

10月3日(日)に「センター参観デー埋文祭り2010」が開催されます。今年は1日限りの開催ですが、職員一同楽しい企画を用意してお待ちしております。ぜひ、お問い合わせの上ご来場下さい。